

野球少年だった私の一番の試合

福井雅人

昭和四十六年（一九七一年）夏、東京後楽園球場プロ野球公式戦巨人対ヤクルトの試合に於て、当時小学校五年生十一歳の私は後楽園球場の三塁側ジャンボスタンドの最前列で父親の隣に座り、初めてのプロ野球観戦に興奮していた。私は当時の小学生の例に漏れず、生粋の野球少年で地区の子供会の野球チームに所属し毎日野球に明け暮れていた。

私は今でこそ横浜DeNAベイスターズの大ファン。一九七六年の高校一年生からの、川崎球場時代からの大洋ホエールズファン。その後一九七八年の横浜スタジアムへの移転による横浜大洋ホエールズファン。横浜ベイスターズ。横浜DeNAベイスターズファン。ファン歴四十七年に於て、唯一の一九九八年のセリーグ優勝、日本一の一回だけ。暗黒時代ばかりのこんな弱小チームを愛して止まない、熱烈的な横浜ファンなのだ。そんな私であるが中学生まではアンチジャイアンツ。強い者が嫌いな私はあの頃のV9時代の巨人が大嫌い、何処のファンと言う訳ではなく、巨人戦しか放送しないプロ野球中継を観ても巨人の相手チームを応援すると云う、当時巨人ファンしかいないのではと思える野球少年の中では際立った変り種であった。

私が野球にのめり込んで行ったきっかけはプロ野球ではなく高校野球だった。両親が共働きだったが家には祖母が居たためカギっ子にはならず、学校から帰って来るといつもTVの前に祖母が座っていた。なにしろテレビが大好きで、大相撲があれば早い放送開始から最後まで観る。高校野球がある時は第一試合から全部観る。学校から帰って一緒に観ている私は当然の如く大相撲ファン。高校野球ファン。然も祖母は相撲も野球も詳しく、相撲取りは二枚目が好きで、私が子供の頃は明武谷。その後は先代の大関貴ノ花の大ファンだった。高校野球も春、夏を問わず詳しく、このチームは前年準優勝で今年はその雪辱を果すべく練習を頑張つて出て来て、今度こそ優勝を狙える本命だ。なんて事をさりと云つてのける程だった。そんな祖母の影響を受け、自他共に認める高校野球大好き少年だった私だが、初めて観るプロ野球のスタンドの熱気と選手の一流のプレーに圧倒されていた。この試合が動いたのはヤクルトの若松選手の先制ホームランだった。それを受けてヤクルト浅野投手のしびれる熱投。しかし巨人も負けていられない。王選手の本一足から放たれた追撃のホームラン。この頃の王選手は脂の乗っている頃、晩年こそ狭い後楽園球

野球少年だった私の一番の試合



福井雅人

ふくい まさと

神奈川県立麻溝台高等学校卒業
明治学院大学社会学部中退
株式会社 東急ハンズ
株式会社 造事務所
相模総合補給廠
日本流通企画株式会社 等を経て現在に至る。
昭和 35 年（1960 年）生まれ

場のライトスタンド前列に飛び込むようなホームランを打っていたが、全盛期はライトスタンド後方へ大きな、時には場外へも飛び出すホームランを描いていた。そんな訳で試合が緊迫すれば良いプレーも出る。この試合長嶋選手がヒットを打った記憶は無いが、守備では魅せてくれた。中でも三塁線を破ろうかと云うあたりを横っ飛びで取ると、立ち上がって一直線にファーストに送球し見事アウト！ ファインプレーに球場全体がどよめき盛り上がる。投打のバランスがかみ合ってきた巨人は最終回、代打滝選手のサヨナラホームランが飛び出し後楽園球場のスタンドを埋め尽くした巨人ファンで大いに盛り上がった。根っからのアンチ巨人の私もその時ばかりは劇的な試合の幕切れに興奮し酔いしれまるで巨人ファンであるかのように喜んだ。私が巨人の試合でこのように喜んだのは、後にも先にもこの試合これ切りであった。